



「地域の家を守ることに力を入れたい」と語る岡庭社長

# 「みんなのでつくる家」 住み手と作り手が一体



## 私のこだわりものづくり

### 岡庭建設株式会社

おかにわのぶゆき  
**岡庭 伸行** 代表取締役

昭和40年東京都中野区生まれ  
平成21年に社長就任

◆住所:西東京市富士町1-13-11  
◆電話:042-468-1166

岡庭建設  検索



①環境デザイン優秀賞を受賞した「くらくの家」と木箱ガルデン  
②キッズデザイン賞を受賞した「おかにわのキッチンスタジオ」

## シンプルな「木箱の家」を提案 「家づくり学校」も開講

岡庭建設株式会社（岡庭伸行社長）は昭和45年の創業以来、地域の工務店として、西東京市やその周辺地域の住宅を建設している。長年、フルオーダーの家づくりに取り組んできたが、「岡庭の家づくりを規格化することで、施工期間やコストを抑えた家ができないか」と模索を続け、平成22年にセミオーダーの規格型住宅「木箱の家」を誕生させた。

「木箱の家」は国産材を使い、無駄を省いたシンプルなお家。自然災害に強い丈夫な外箱に、キッチン、洗面台などのパーツを自由に配置し、家づくりができる仕組み。ユーザーの好みやセンスでカスタマイズできるのが、若い子育て世代に好評だ。同社は年間30棟超の家を建設しているが、その半数を「木箱の家」が占める。

「木箱の家は、『小さな家でコストも小さく』というのがコンセプト。太陽の熱や光、風など、地域特有の自然を理解し、自然エネルギーをうまく取り入れた快適な暮らしを提案しています」と岡庭社長。平成2年に父親が経営する岡庭建設に入社し、平成21年に2代目社長に就任した。その3年後、岡庭不動産株式会社を設立し、土地探しからサポートしている。

岡庭建設は「コミュニケーションでつくる家づくり」を大事にする。「お客さまと設計者、現場監督、大工など家づくりに関わる人たちがよく話をして意見を出し合う。みんなですくっていく気持ちを大切にしていり組んでいます」と岡庭社長は話す。

「家をつくりたいけれど、どう進めたらよいか分からない」と不安を持つ人も多いことから、「おかにわの家づくり学校」も開講。設計士などの専門家から話を聞く座学だけではなく、実

際の住まいを見に行く体験型の講座もそろえ、これまでに延べ800人が参加した。この取り組みは、「西東京市の一店逸品」に認定されている。

岡庭建設の家は、グッドデザイン賞など数々の賞を受賞している。平成25年には「住まいの環境デザインアワード2013」で、「くらくの家」が「農・食・住を伝える暮らし」が環境デザイン優秀賞に輝いた。体験農園を持つ農業者の自邸の東側に5棟の木箱ガルデン（農園付住宅）を配し、農を通じて交流しながら食・住の大切さを分かち合う暮らしを実現している。

さらに平成27年には、親子が料理を一緒に楽しめるキッチン提案した「おかにわのキッチンスタジオ」が親子が集う台所が、キッズデザイン協議会の第9回キッズデザイン賞を受賞した。

「会社から地域を、地域から人を元気にしていきたい」と考える岡庭社長は、市内の飲食店や雑貨店に声をかけて「庭之市」を開いたり、元プロサッカー選手を招いてサッカー教室を開くなど、地域貢献活動にも熱心に取り組んでいる。こうした活動が評価され、東京都信用金庫協会の優良企業表彰・特別奨励賞も受賞した。

今後、わが国は人口が減って空き家問題が深刻化する。空き家を増やさないためには中古住宅の資産価値を上げて流通を活性化にする必要がある。そこで同社は「おうちクリニック」という新規事業をスタートした。家を定期点検し、その結果に基づいて適切な修繕計画を作成。メンテナンスや維持管理をサポートするという事業だ。

「今後は、家を建てるだけではなく、地域工務店として家の町医者のような存在を目指し、地域の家をしっかりと守っていききたい」と岡庭社長は語る。